

# 事務事業チェックシート

事務事業No

事業名

[事業基本情報]

963

発明創作事業

[長期総合計画]

分野別目標	3	子供たちがいきいきと育つまち
政策	3	生涯を通じた豊かな心と健やかな体の育成
施策	1	豊かな心を育む教育の推進
取組方針	2	郷土を愛するふるさと教育の推進

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・ 予算区分	会計		一般会計	
	款		教育費	
	項		社会教育費	
	目		こども科学館費	
	大事業		こども科学館事業	
	中事業		発明創作事業	

事業種別	継続		関連個別計画			
事業年度	平成21年度	～	無し	担当課・担当課長・Tel	学校教育課	古田 清和 435-1139
事業実施の根拠法令			関連課			

## 1 事業内容

事業目的	(「誰・何」をどういう状態にするための事業か)		全体事業概要			
	子供たちや市民の方々にモノづくりを通じて、つくったり工夫したりする楽しさや発明に対する意識を高め、創造性豊かな人材育成やものづくりへの関心や興味の普及を図ることを目的とする。		子供たちや市民の方々にモノづくりを通じて、つくったり工夫したりする楽しさや発明に対する意識を高め、創造性豊かな人材育成やものづくりへの関心や興味の普及を図ることを目的とする事業。			
事業内容	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	
	市民発明くふうコンクール、子供創作教室、ペットボトルロケット工作打ち上げ大会、企業見学バスツアー等の実施。	市民発明くふうコンクール、子供創作教室、ペットボトルロケット工作打ち上げ大会、企業見学バスツアー等の実施。	市民発明くふうコンクール、子ども創作教室、ペットボトルロケット工作打ち上げ大会、企業見学バスツアー等の実施。	市民発明くふうコンクール、子ども創作教室、ペットボトルロケット工作打ち上げ大会、企業見学バスツアー等の実施。	市民発明くふうコンクール、子ども創作教室、ペットボトルロケット工作打ち上げ大会、企業見学バスツアー等の実施。	市民発明くふうコンクール、子ども創作教室、ペットボトルロケット工作打ち上げ大会、企業見学バスツアー等の実施。

## 2 事業コスト

事業費等(千円)	平成30年度		平成31年度		令和02年度		令和03年度		令和04年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	12,092	11,744	12,348	11,787	12,933	11,558	12,884	0	12,884	0
伸び率(%)	2.1%	2.9%	2.1%	0.4%	4.7%	△1.9%	△0.4%	△100%	0%	0%
人件費	正規職員	800	806	806	797	797	797	0	0	0
	正規職員以外	832	832	826	826	882	882	722	0	0
	小計	1,632	1,632	1,632	1,632	1,679	1,679	1,519	0	0
国庫支出金	0	0	0	5,195	6,291	6,291	6,266	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	1,432	1,282	1,391	1,329	1,634	1,634	0	0	0	0
一般財源(税等)	10,660	10,462	10,957	5,263	5,008	3,633	6,618	0	12,884	0
所要人数(人)	正規職員	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.00	0.00	0.00
	正規職員以外	0.29	0.29	0.29	0.29	0.30	0.30	0.25	0.00	0.00
主な予算内訳	業務委託料12,533千円(令和3年度当初) 地方創生推進交付金の対象となったため、国庫支出金の予算に6,266(千)円がついている。									

## 3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位		平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
				目標値	実績値	達成度(%)	目標値	実績値
発明創作事業の参加者数		人	目標値	500	500	500	500	500
			実績値	433	449	52		
			達成度(%)	86.6%	89.8%	10.4%	%	%
ものづくりへの関心・意欲を高めることができたと判断できる事業参加者に対するアンケート結果。満足およびやや満足と回答した割合。		%	目標値	100	100	100	100	100
			実績値	95	90	97		
			達成度(%)	95%	90%	97%	%	%

#### 4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か		現行の手段でよい	○	一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している (90%以上)		おおむね達成 (70~90%未満)	○ 達成していない (70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

#### 5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実			○	
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	<p>発明くふうコンクールやペットボトルロケット工作打上大会、子供創作教室等を行う当事業は「モノづくり、科学」に関わる教育的な意義があり、継続して行うことが大切である。また参加希望者は増加傾向にある。子供創作教室においては、造花、電気、木工、皮工作、科学等の分野における専門的な技能を持つ講師（嘱託）に依頼することにより、より高度な「モノづくり教育、科学教育」を実施している。しかし令和2年度は新型コロナウイルスの影響で、一部の子供創作教室（親子科学 木工 電気 プログラミングの各教室）のみの開催となった。</p>
見直し・改善内容	<p>新型コロナウイルスの影響によりいくつかの事業が中止せざるを得なくなった。一部の子供創作教室のみ定員の半数（親子科学：8組、木工及び電気：16人、親子プログラミング：8組）での実施となった。また、一般のボランティアの方（2人）や和歌山信愛大学の学生（4人）に指導に関する補助をお願いした。少人数の実施ではあったが、子供たちの満足度は高く、一般のボランティアの方々や和歌山信愛大学の学生たちと共に有意義な学びの場となった。今後も継続していけるよう考えている。</p>